


クラス	専門演習 103	担当教員	佐藤 慎一
	テーマ	自らの学びをデザインする	
	著書・論文 研究課題等	【著書・論文】「つながり・協働する学習環境デザイン」晃洋出版 2013 「学内 SNS の活用が学習動機に及ぼす影響」教育工学会論文誌 2010 “PISION: A System to Visualize Blogs and Forums”, ED-MEDIA, 2011 「国際交流イベント推進のための Web 活用」学習情報研究 2011 【研究課題】教育学、特に、体験型学習のための学習環境デザイン	

ゼミナール概要

キーワード：協働学習、教育学、ソーシャルラーニング

<目的・活動の概要>

■ 戦える力を身につける！

- ・ 海外学生とチームで働く力：全南大学（韓国）、中山大学（台湾）、ミンダナオ国際大学 学生との連携
- ・ 英語・日本語コミュニケーション力 / 社会人基礎力（ビジネス力） / 文章作成能力（日本語・英語）
- ・ 国際学会への参加経験など

<授業計画>

本ゼミでは、韓国や台湾等の学生との協働での調査・研究活動、および、その成果の発表（英語プレゼン）を目指して各種活動に取り組む。ゼミ生は、これらの活動に取り組むこと、あるいは、自らフィールドを設定して調査・研究活動を行っていくことが求められる。学習・教育に関する知見・方法論について、一定レベル座学でも学びつつ、上記のような場で自らそれを試行錯誤的に実践し、よりよい学習者になることを目指して活動を進める。取り組みにおいては、以下の点を重視する。

■ 各種の機会を捉え取り組みの成果をプレゼンテーションする。

自分の考えをしっかりと文書にまとめ、プレゼンテーションとして整理して発表することで達成感を味わうことができるとともに、他者からのフィードバックを得ることも可能となる。学会発表で他大学の学生と意見を交わす、学内のイベントにエントリー・発表する等といった活動にも積極的にチャレンジしていく。

■ 自らの体験・考え・主張を論理的に表現する。

何をするにせよ、言葉にして伝えるということは、基本的なスキルであり、裏付けを示しつつ論理的に表現することは特に大切である。各自がどのようなテーマ・課題で活動していくにしても、また、どのような体験を取り入れるにせよ、この点は常に意識し、文書としてアウトプットを残す、ということを重視する。

■ 各種メディアに対する知識・理解を深め、表現や活動方式の幅を広げる。

ソーシャルメディアが普及し、ビジネスの方法にも影響を及ぼしている。こうした新たなメディアは、使い次第で毒にも薬にもなりうるものであり、これらの特性を着実に理解した上で、適切に活用していく必要がある。ゼミ活動における各種の情報共有、情報交流、さらに、ゼミ活動の成果公開等において、実践的にこうしたメディアに触れながら、その基礎・特性の理解を図る。

「学習」「教育」をキーワードとしつつ、その周辺領域を含めて、意見交換しながら、自ら取り組みのテーマ設定し、上記活動に取り組んでいく。4年ゼミ（影戸・佐藤ゼミ）とは適宜協働し、各々の教員の強みをいかした活動・取り組みを展開する。

担当教員からのメッセージ

学習・教育に関する知見が有効な場面は、長いキャリア・人生の中でたくさんあるでしょう。そんな時に、活用できる力を身につけてもらいたいと思っています。韓国や台湾の学生との協働、各種のフィールドワーク等、提供される活動の場面には積極的に関わって下さい。また、教員から提供される場だけでなく、自らも体験の場を切り開いて学習へとつなげ、ゼミの中でも紹介してくれることを期待しています。

考えることを諦めず、困難や苦労に楽しみながら粘り強く取り組み、その先にある達成感・充実感・爽快感を一緒に味わっていきましょう。